令和８年度　　若松原中学校　学校評価書

※　網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

１　教育目標（目指す生徒像含む）

（１）基本目標

人間尊重の精神を基盤として，高い知識と豊かな心，たくましさを身につけ，地域社会や国家，世界に広く目を向けた人間を育成する。

（２）目指す生徒像

①　自ら学ぶ生徒　　②　心豊かな生徒　③　たくましい生徒　　④　視野の広い生徒

２　学校経営の理念（目指す学校像含む）

「あたたかい学校・活力のある学校・人の集まる学校」

３　学校経営の方針（中期的視点）　※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

（１）あたたかい学校

・心の教育，望ましい人間関係づくりを図る　・学びやすく，生活しやすい環境を整備する
・花と緑を大切にした潤いある環境を整備する・教職員の資質向上と健康管理に努める

（２）活力のある学校

・学業指導の充実に努める　・積極的な生徒指導を推進する
・特別支援教育の視点を十分に生かす　・体力・気力の向上と健康教育を推進する

（３）人の集まる学校

・生徒が楽しいと感じる学校づくりに努める　・地域の人材，資源を活用した教育を推進する
・職員が働き甲斐のある職場づくりに努める　・地域活動や災害時避難場所としての機能の充実

［若松原地域学校園教育ビジョン］
「つなげよう学び　きたえよう心と体　共にのびようＷＧＳ学校園」
９年間の学校教育にかかわる教職員が，その思いと責任を共有し，連携して児童生徒の発達段階に応じた一貫性のある指導を継続的に実践する。

４　教育課程編成の方針

Society 5.0時代において，子どもたちが地域や国家・世界とのつながりの中で生活していることを自覚し，広い視野で物事を見て，考え，判断し，行動しようとする意欲と態度をもてるよう，教育課程と指導体制を工夫する。

（１）日本国憲法，教育基本法，学校教育法及び学習指導要領の関係法令，及び県教育行政基本方針，市教育委員会管理運営規則，市学校教育スタンダードの示すところに従って編成する。

（２）地域や学校の実態を踏まえ，生徒の心身の発達段階や特性を十分考慮しながら，人間として調和のとれた育成を目指して特色のある教育課程を編成する。

（３）小中一貫教育，GIGAスクール，宇都宮学の趣旨を生かし，学校教育全般にわたる教育活動の充実を目指して適切な運用が図れるよう配慮して編成する。

５　今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

（１）学校運営　～だれもが安心して学び，活力にあふれる学校づくり～

・教育への情熱と使命感をもった信頼される教職員集団となり，生徒の多様な教育的ニーズに応じた適切な指導・支援を行い，学校に関わる全ての人が，自己の強さや良さを生かせる学校運営を展開する。

・生徒や家庭，地域，関係機関等と学校教育目標や学校経営の理念，諸活動の目的を共有することで，それぞれの立場で育てたい生徒像を明確にし，その具現化を目指し，達成しようとする集団づくりの推進に努める。

○教職員一人一人の特性を生かした校務分掌を工夫や協働性を高め，働き甲斐と個々のモチベーションを大切にすることで，業務の効率化と働き方改革を進める。

（２）学習指導　～子どもが意欲的に取り組む授業，わかる授業づくり～

○ＩＣＴ機器の利点を生かし，効果的に活用することで，授業改善を図り，主体的，対話的で深い学びを実現する。

・指導に生かす評価と追究意欲を高める課題を主体的に設定できるように支援するとともに，わかる授業への授業改善を行うことで，生徒の学習意欲の向上を図る。

・学びに向かう生徒育成並びに家庭学習の習慣化と質の向上を目指し，将来を展望させ，「なぜ学ぶのか」を共に考え，個別最適化した学習指導を工夫して行うことで，基礎・基本の学力の定着を図る。

（３）児童生徒指導　～帰属意識の高い学級経営とともに成長できる集団づくり～

○ともに課題に挑戦し，互いに認め励まし，称え合う指導を推進することで，自他共に成長できる集団づくりに努める。

○生徒が考え，実践し，決定させる機会を与えることで，自ら考え判断し，責任を持って実行できる自己指導能力の育成，向上を図る。

○自己理解を深めさせるとともに，自己肯定感や自己有用感を高めさせることで，困難を克服し失敗から立ち上がる力(レジリエンス)の育成に努める。

○生徒理解に努め生徒の発達課題に応じた指導を展開し，生徒との良好な人間関係づくりを基にした，帰属意識

の高い学級経営を行うことで，自己肯定感，自己有用感をはぐくむ。

（４）健康・体力・保健安全　～強い体，折れない心，健康的な生活を目指して～

○体力向上のための補強運動の実施と外遊びの強化をすることで，基礎体力の向上と，粘り強く取り組む意欲を養う。

○個に応じた健康診断の事後指導や食育を行うことで，自他の生命や心の健康を大切にし，安全で豊かな生活への意識を高める。

○安全教育を充実し，危険予測や避難回避能力など，危機に対応できる能力の育成を図る。

６　自己評価

A1～A20は市共通評価指標　B1～は学校評価指標（小・中学校共通，地域学校園共通を含む）

※「主な具体的な取組の方向性」には，A拡充　B継続　C縮小・廃止，を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は，文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

第２次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評　価
１－（１）確かな学力を育む教育の推進	Ａ１　生徒は，他者と協力したり，必要な情報を集めたりして考えるなど，主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 評価項目Ａ１の 生徒の肯定的回答が 85%以上	・ＩＣＴ機器を効果的に活用し，個別最適化を図るとともに，主体的な学びを実現するための授業改善を進める。 ・授業での学習を家庭学習に繋げられるように見通しを立てて計画し，実践できるようにする。 ・教職員が連携を図ることで，学習内容や評価を統一させ，主体的に取り組むことができる授業づくりに努める。 ・他者とのコミュニケーションを通しての学習では，ワールドカフェ方式や特派員方式などを取り入れ，質的な向上を図っていく。		【達成状況】 【次年度の方針】
１－（２）豊かな心を育む教育の推進	Ａ２　生徒は，思いやりの心をもっている。 【数値指標】 評価項目Ａ２の 生徒の肯定的回答が 85%以上	・地域学校園道徳教育の重点項目として，互いを思いやる心を育む。 ・被災地への募金や黄ブナ作り，塚山清掃活動などを通して，地域貢献，思いやりの心を育む。 ・障がいをもった方との関わりを通して，福祉への理解を深める。 ・「若中プライド賞」を通して，思いやりの育成を図る。 ・今年度の地域未来会議において「思いやり」をテーマに話し合い，地域の人と学校とが連携して思いやりの心の育成について考える。		【達成状況】 【次年度の方針】

	Ａ３　生徒は，目標に向かってあきらめずに，粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 評価項目Ａ３の 生徒の肯定的回答が 85%以上	・キャリアパスポートを活用し，９年間のキャリア教育の充実を図る。 ・目指す生徒像を明確にして，自己評価や相互評価を行いながら，ＰＤＣＡサイクルにのせ達成度を確認し，取組の改善を図っていく。 ・宮っ子チャレンジやボランティア活動などの体験を通して「視野を広く」を合い言葉に地域や社会へ貢献する態度を育てる。 ・様々な分野の活動が入り組み，余裕をもって諸活動に取り組めていないため，十分に評価できていない可能性がある。見通しをもって活動に取り組めるよう，教職員の連携を図り，情報共有に努める。 ・教職員は授業の問題提示等の改善を図っていく。 ・目標設定に対して個に応じた指導を行い，目標達成に向けての励ましや支援の方法を考えていく。 ・振り返りを行う中で，次のステップでの目標設定の助言を行う。		【達成状況】 【次年度の方針】
１－（３）健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	Ａ４　生徒は，健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 評価項目Ａ４の 生徒の肯定的回答が 90%以上	・生徒の基礎体力向上のために，授業における補強運動や縄跳び検定などの各種検定を実施し，運動に親しみながら運動量を確保できるようにする。 ・宮っ子ダイアリーの「元気っ子生活習慣チェック」を活用し，基本的生活習慣の定着を図る。 ・生徒保健体育委員会中心に給食後の歯みがきを実施し，健康の保持増進を図る。 ・お弁当の日では，地域学校園で連携を図りながら実施方法を検討し，充実感を得られる食育を推進する。 ・避難訓練，各安全教室などを通して，自然災害や不審者に対する対応等の知識を深め，危機対応能力の育成を図る。 ・交通安全教室を通して，身の回りの交通環境の理解や安全意識を高めることで，交通安全指導の充実を図り，危機対応能力の育成を図る。 ・日常の安全について主体的に考えられるよう朝の会や帰りの会で話をしていく。 ・教職員の危険に対しての意識の向上を図っていく。		【達成状況】 【次年度の方針】

１－（４） 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	Ａ５　生徒は，自分のよさや成長を実感し，協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 評価項目Ａ５の 生徒の肯定的回答が 80%以上	・生徒は学習や部活動，学校行事に目標をもって熱心に取り組んでいる。さらに，互いに切磋琢磨しながら成長していけるような場の設定を工夫し，認め励まし合う雰囲気づくりを行う。 ・学校行事での振り返りを通して，自分や友人の頑張りを認められるようにしていく。		【達成状況】 【次年度の方針】
２－（１） グローバル社会に主体的に向き合い，郷土愛を醸成する教育の推進	Ａ６　生徒は，英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 評価項目Ａ６の 生徒の肯定的回答が 80%以上	・授業以外でもALTと交流を図れる活動（今年度実施した英語の絵本の読み聞かせや英会話，ゲームなど）を継続し，生徒のコミュニケーションへの関心・意欲を高める。 ・授業の帯活動としてsmall talkを継続し，自信をもって話したいことを発信し，英語で会話を続ける力を養う。		【達成状況】 【次年度の方針】
	Ａ７　児童生徒は，宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 評価項目Ａ７の 生徒・教職員の肯定的回答が 80%以上	・宇都宮について取得した知識を活用して，宇都宮の未来について考えたり，魅力を表現したりすることで，宮っ子としての誇りをもてる心を養う。 ・「宇都宮学」の年間指導計画の見直しを行うとともに，追究学習の学びにおける工夫改善を図り，宇都宮への愛情と誇りがもてるよう育成する。 ・教職員が宇都宮の良さを熟知したうえで，ICTを活用した授業が行えるような教材研究・授業づくりを行う。 ・宇都宮の魅力を表現・発信するためにICTを活用する。		【達成状況】 【次年度の方針】
２－（２） 情報社会と科学技術の進展に対応した教育の推進	Ａ８　生徒は，デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 評価項目Ａ８の 教職員の肯定的回答が 90%	・スクールタクトやＡＩドリル等で課題を出したり，意見を共有させる場を設けたりするなど，授業において生徒が端末を活用しやすい環境を整備する。 ・各教科・領域の年間指導計画のもと，ＩＣＴ機器や図書を利用した学習活動を取り入れる。 ・端末使用のルールを徹底できるよう，生徒指導と協力し，生徒，教員に周知する。 ・図書館司書と連携し，図書室を利用した学習活動のモデルや授業で活用できる図書を紹介し，図書の利用を促す。 ・学習内容等に応じて，ＩＣＴを取り入れるときと取り入れなくてもよいときの見極めをしっかり行い，より効果的に取り入れていく。 ・学年で図書館利用を学級活動や総合的な学習の時間の年計に取り入れていく。		【達成状況】 【次年度の方針】

２－（３） 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進	Ａ９　生徒は,「持続可能な社会」について，関心をもっている。 【数値指標】 評価項目Ａ９の 生徒の肯定的回答が 75%以上	・総合的な学習の時間を中心に各教科で「持続可能な社会」について年間指導計画に明示し，考え，議論させたり実感させたりする機会をつくり，実行する。 ・校内に SDGs 専用の特設コーナーを設け，生徒会や各専門員会で取り組んでいる活動を紹介するなどし，全校生徒が協力して課題解決に向けて率先して取り組めるよう工夫する。 ・総合的な学習の時間や生徒会活動（専門委員会・生徒会朝会等）を活用し，生徒が SDGs について学ぶ機会を設ける。 ・お昼の放送で生徒会執行部の取組を発表する。 ・文化祭において学校全体で取り組んでいる「SDGs の推進」を掲示し，広報する。		【達成状況】 【次年度の方針】
３－（１） インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進	Ａ10　教職員は，特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて，適切な支援をしている。 【数値指標】 評価項目Ａ10 の 教職員の肯定的回答が 90%以上	・学年会や校内支援委員会，教育相談部会などを活用して，情報共有を徹底するとともに，組織力を生かした対策を立てて実践する。特別支援学級担当を教育相談部会のメンバーに加え，月１回程度特別な支援を必要とする生徒について話し合う機会を継続して設ける。 ・外国人生徒だけでなく，「地域学校園内や地区から転入学してくる特別な支援を必要とする生徒（外国人生徒を含む）」に関しては，情報を迅速に集め，登校初日から生徒の実態に応じた配慮を行うことができるような行内体制を構築する。 ・教育相談部会で検討した生徒や保護者を SC や MS に繋ぎ，学校へ登校できるような支援を検討する。 ・合理的な配慮についてどんな対応があるのか等の職員研修を行う。		【達成状況】 【次年度の方針】
３－（２） いじめ・不登校対策の充実	Ａ11　教職員は，いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 評価項目Ａ11 の 生徒の肯定的回答が 90%以上	・引き続き年５回のアンケートや，教育相談等で生徒の様子の把握に努める。 ・全校生徒によるいじめゼロ標語の作成やリボンの掲示・放送集会等を行い，いじめが許されない行為であるという意識が学校全体で共有することができた。 ・学校での取組状況を，各種たよりやホームページによる周知だけでなく，保護者や地域に効果的に発信する。 ・地域未来会議において地域住民と中学生がいじめ問題について語り合う機会をもつように計画する。		【達成状況】 【次年度の方針】

	Ａ12　教職員は，不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 評価項目Ａ12 の 生徒の肯定的回答が 90%以上	・若中プライド賞では，教員が生徒の善行を表彰し，学校全体で認め励まし合う雰囲気を醸成することができた。来年度は，生徒相互の認め合いなど工夫を加え，継続して実施していく。 ・不登校や別室登校になる前の対策や，行き渋りが見られた場合の早期対応策についてさらに検討し，共有する。 ・教育相談部会において，別室対応の生徒についての振り返りや目標設定を定期的に実施する。 ・外部機関との連携をさらに強化し，様々な方法で支援できるようにする。 ・教員による日頃の見取りや教育相談等での聞き取りから，生徒の悩みを早期の段階で把握し，全職員で共有することによって解決する。 ・Q-U 検査における事例検討会で学級経営についての研修を行う。		【達成状況】 【次年度の方針】
３－（３） 外国人児童生徒等への適応支援の充実 ３－（４） 多様な教育的ニーズへの対応の強化	Ａ13　学校は，一人一人が大切にされ，活気があり，明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 評価項目Ａ13 の 生徒の肯定的回答が 85%以上	・昨年同様に，クラスや学年ごとに互いを認め励まし合う雰囲気の醸成に努め，生徒一人一人の自己肯定感を高める取組を行い，学級や学年間でも共有する。 ・生徒が主体的に取り組む生徒会活動や学校行事の充実を図り，達成感や充実感を味わわせるとともに，その様子をたよりや学校ＨＰで保護者や地域住民に発信するよう努める。 ・生徒の善行が様々な場面で見られるようになってきたので，来年度も機会を捉えて「若中プライド賞」を継続し，生徒の善行の表彰を行い，生徒の達成感や自己肯定感を高めていく。 ・教員だけではなく生徒間での良い行いを認め合う機会と場面を設け，さらに自己肯定感を得る体験を増やす。 ・一人一人に目を向け，大切な存在である視点であたたかな学級経営を行うようにしていく。		【達成状況】 【次年度の方針】

４－（１） 教職員の資質・能力の向上	Ａ14　教職員は，分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い，学力向上を図っている。 【数値指標】 評価項目Ａ14の 教職員の肯定的回答が 90%以上	・毎時間，授業のねらいを明確にし生徒の実態に応じて授業を展開していく。そのために教職員同士が互いに授業を見せ合い改善策を話し合ったり，授業スキルを共有したりする機会を設けていく。また，習熟度学習やTTなど授業形態の工夫を実施し，生徒一人一人のニーズに合わせ，個に応じた指導を実施していく。ICT機器を効果的に使うことで生徒の実態に合わせた指導をしていく。 教職員の授業力向上の研修を取り入れていく。 ・個別最適な学びにつながるよう，授業においての個人目標を設定し，振り返りをさせ，指導に生かしていく。		【達成状況】 【次年度の方針】
４－（２） チーム力の向上	Ａ15　学校に関わる職員全員がチームとなり，協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 評価項目Ａ15の 教職員の肯定的回答が 90%以上	・ＳＣ，ＭＳ，かがやき指導員，ステップアップルーム，市教委，ＳＳＷとの連携を継続し，全職員でのサポート体制を推進していく。 ・地域や家庭と連携して，地域未来塾や地域未来会議，花壇ボランティアの整美，ビックリーン(地域清掃活動)等の実践可能な活動を拡充し，つながり感を高める取組を一層推進させていく。 ・個々の教職員へのサポート体制，各学年の協力体制を維持，継続させ，その基盤の上に校務運営委員会や学年主任会，学年会等の機能を活用しながら学年間の連携，協力，相談を推進していく。 ・学校行事において，教職員で一致団結して行う取組を発表する機会を設ける。 ・生徒指導部・教育相談部の組織体制の強化とほうれんそう（報告・連絡・相談）の徹底を行い，全職員がチームとなって取り組んでいく。		【達成状況】 【次年度の方針】
４－（３） 学校における働き方改革の推進	Ａ16　勤務時間を意識して，業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 評価項目Ａ16の 教職員の肯定的回答が 85%以上	・引き続き会議の効率化を進め，リフレッシュデーの推進に努める。 ・業務改善や働き方改革の本質を確認し，教職員一人一人の意識改革を図る。 ・引き続き部活動改革，通知表の改訂，採点システム導入等により業務の効率化を図っていく。 ・保護者への啓発に力を入れ，保護者の理解と協力を深めていく。 ・教育課程での時間編制と部活動の活動時間の見直しを図るとともに，教職員の意識改革を進めていく。 ・生成ＡＩを業務改善に生かし，業務の効率化を図る。		【達成状況】 【次年度の方針】

５－（１） 全市的な学校運営・教育活動の充実	Ａ17　学校は，「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 評価項目Ａ17の 教職員の肯定的回答が 95%以上	・小中一貫教育の取組を工夫し，一部の生徒のみでなく，多くの生徒が関わるように広げる。 ・小中一貫教育と日頃の教育活動との関連を図り，活動のつながりを計画に位置付け，意識を高める。 ・小中一貫教育で実践している活動の宣伝，ＰＲ，啓発を推進する。 ・ＷＧＳあいさつ運動に有志の生徒を募り，生徒全体に浸透させていく。 ・地域学校園共通の学びを検討する。		【達成状況】 【次年度の方針】
５－（２） 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 ５－（３） 地域と連携・協働した学校づくりの推進	Ａ18　学校は，家庭・地域・企業等と連携･協力して，教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 評価項目Ａ18の 生徒の肯定的回答が 80%以上	・地域未来会議を拡大し，参加メンバーを広げる。生徒は，生徒会執行部に加え，専門委員会委員長や学級委員長に広げ，地域協議会委員やＰＴＡとの交流を促進する。 ・ビックリーン(地域清掃活動)やＷＧＳあいさつ運動を地域協議会，家庭と連携して実践し，つながりと交流を深める。 ・「働く人に学ぶ」や社会体験学習(宮っ子チャレンジ)において，地域や企業等との連携を図り，活動の充実を図る。 ・地域協議会だよりを保護者へさくら連絡網を活用して送付し，地域住民へは回覧版を活用して最新情報を届ける。 ・ホームページの日々の記録や各種たよりをこまめに更新し，地域への発信力を高めるとともに，学校の教育活動に対する理解を深める。		【達成状況】 【次年度の方針】
６－（１） 安全で快適な学校施設整備の推進	Ａ19　学校は，利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 評価項目Ａ19の 保護者と地域住民の肯定的回答がともに 90%以上	・地域協議会等を活用し，地域住民の考える課題を明確にし，その改善も含めて毎月の安全点検や修理が必要な個所の報告・連絡を密にして計画的に修繕を進めていく。 ・施設の老朽化が進み，修繕が必要な箇所が多数あるため，生徒の安全を第一に考えながら，市教委と連絡を密にし，計画的に修繕を進めていく。 ・学校業務や学校環境整備作業員(機動班)との連携を密にする。		【達成状況】 【次年度の方針】
６－（２） 学校のデジタル化推進	Ａ20　コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から，授業（授業準備も含む）を行うための準備ができている。 【数値指標】 評価項目Ａ20の 教職員の肯定的回答が 80%以上	・引き続き情報担当者により，ICT機器の一括管理および整備を行い，管理・運用を工夫する。 ・教職員が手軽に利用できるよう，保管場所の周知や貸出方法の工夫を行う。 ・授業しやすい環境を作るため，周辺機器の整備，管理・運用を工夫する。		【達成状況】 【次年度の方針】

小・中学校，地域学校共通，本校の特色・課題等	Ｂ１　生徒は，時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 評価項目Ｂ１の 生徒と保護者の肯定的回答が90%以上	・「礼節週間」や「語先後礼」の取組を生徒に周知し，職員と全校生徒が目的意識をもって行動できるよう指導する。 ・「あいさつ運動」の取り組み方の工夫改善を図り，目指す生徒像を明確にして，生徒会執行部や生活委員だけでなく，全校生徒が主体的に取り組めるような方策を検討する。 ・授業の始めと終わりのあいさつがきちんとできるように教科担任が普段から指導をする。 ・自分からあいさつができるように指導を行う。		【達成状況】 【次年度の方針】
	Ｂ２　生徒は，きまりやマナーを守って，生活をしている。 【数値指標】 評価項目Ｂ２の 生徒と教職員の肯定的回答が90%以上	・きまりやマナーについて「なぜ必要なのか」を考えさせ，TP0 に応じた言動ができるように指導を継続するとともに，学校行事等を通して，生徒が考え，決定し，実践する機会を増やして，より一層自主的・自律的な態度の育成に努めたい。 ・生徒主体にするため生活委員を中心に声掛けを行っていく。 ・きまりやマナーについて「なぜ必要なのか」を考えさせ，子どもたちが納得して守れるように学級活動や道徳，生活指導をしていく。		【達成状況】 【次年度の方針】
	Ｂ３　教職員は，一人一台端末等のＩＣＴを活用して，学力向上に取り組んでいる。 【数値目標】 評価項目Ｂ３の 生徒と教職員の肯定的回答が90%以上	・引き続き，各教科におけるＩＣＴ機器活用についての教員間での情報交換・研修を行う。 ・各教科でＩＣＴ機器活用の効果が期待できる内容や学習活動を検討し，年間指導計画の中に位置づけていく。 ・効果的なＩＣＴ活用について話し合い，授業内容でのＩＣＴ活用の精選を推進していく。		【達成状況】 【次年度の方針】
小・中学校，地域学校共通，本校の特色・課題等	Ｂ４　教職員は，「鍛錬タイム（朝学）等」を活用して，授業と一人一人に適した家庭学習と連携した学習指導の充実に取り組んでいる。 【数値目標】 評価項目Ｂ４の 生徒と教職員の肯定的回数が80%以上	・鍛錬タイムでの教科を指定し，学年に応じた学びの場になるよう支援する。 ・チャレンジノートの質の向上を目指し，ドリル学習にとどまらず，自らの興味・関心に応じた学習・研究等も推進するよう指導する。 ・家庭学習の仕方をガイダンスしたり，授業の内容を定着させるための課題を明示したりして，授業を家庭学習をつなぐ工夫を行い，学力向上を目指す。		【達成状況】 【次年度の方針】

小・中学校，地域学校共通，本校の特色・課題等	Ｂ５　教職員は，道徳科や学級活動の授業，学校行事等を通してよりよい人間関係づくりの促進に積極的に取り組み，情報発信している。 【数値目標】 評価項目Ｂ５の 保護者の肯定的回答が 85%以上	・道徳や学活の時間や朝の会や帰りの会を利用し，ソーシャルスキルやグループエンカウンターの時間を設け，よりよい人間関係を築こうとする力を身につける。 ・各学年の担当教諭が連携を図り，学年だよりや学級通信，学校ＨＰを活用して定期的に学校の取組や授業の様子などを地域保護者に情報発信するように努める。 ・善い行いや行事においての活動の情報を発信していく。		【達成状況】 【次年度の方針】
	Ｂ６　教職員は，学級活動や生徒会活動において，生徒が自己決定する機会を与え，生徒自身が決めた目標や活動への粘り強い取組を支援している。 【数値目標】 評価項目Ｂ６の 生徒と教職員の肯定的回答が 85%以上	・次年度も継続し，生徒会朝会での発表を各委員会に割り振り，生徒の自主性を育む。 ・各学校行事の事前指導を十分に行い，生徒の目標を明確にすることで，粘り強い取り組みができるよう支援を行う。 ・教職員は生徒が主体的に活動できる企画や支援を考え，生徒会・委員会活動をより自主的に取り組めるようにする。		【達成状況】 【次年度の方針】
	Ｂ７　生徒は，学校行事や部活動で目標をもって一生懸命活動し，困難な状況になってもあきらめることなく最後までやり遂げている。 【数値目標】 評価項目Ｂ７の 生徒と教職員の肯定的回答が 90%以上	・困難を克服し，不安から立ち上がる力（レジリエンス）を育成するため，体育祭や文化祭などの学校行事と部活動で，一人ひとりが有用感を得られる活動の場を設定する。 ・体育祭や文化祭等の学校行事において互いを励まし，認め合う中で生徒一人一人が達成感や自己肯定感を得られるよう支援する。 ・学校行事や部活動において，生徒に目標を立てさせ，スモールステップで小さな成功体験を積ませながら大きな目標に向かい努力するよう支援する。 学校行事や部活動で個に応じた目標の設定ができるよう支援する。 ・学級担任等は日々の宮っ子ダイヤリーなどで最後までやり抜けるよう励ましていく。		【達成状況】 【次年度の方針】

	Ｂ８　教職員は，防災教育や実践的な防災訓練等を実施し，安心・安全な環境作りに取り組んでいる。 【数値目標】 評価項目Ｂ８の 生徒の肯定的回答が 90%以上	・有事に対する，登下校班を編成することで，生徒一人ひとりの自衛意識を高め，生徒の自己指導能力の育成に努める。 ・地震・火災，不審者に対する避難訓練をより実際に近い形(告知なし訓練等)で行うことで，生徒の防災に対する意識を高める。 ・毎月の登下校指導や交通安全教室，自転車点検において，生徒自らが安全に気を付けて生活できるよう継続した指導を行う。 ・避難訓練や学級活動において自然災害の恐ろしさを考え，生徒の防災の意識を高める。 ・日常から事故等の予測による未然防止ができる力を養うよう指導していく。		【達成状況】 【次年度の方針】
	Ｂ９　学校は，ＷＧＳあいさつ運動やボランティア活動等を通して，地域との連携や交流に取り組んでいる。 【数値目標】 評価項目Ｂ９の 地域住民の肯定的回答が 80%以上	○ＰＴＡや地域協議会と連携したＷＧＳあいさつ運動，ビックリーン(地域清掃活動)を推進し，人間関係の育成に努める。 ・地域の敬老会やフェスタ，防災訓練等に中学生がボランティアとして参加し，地域との交流を深める。 ・生徒会専門員会を活用しながら，地域ボランティアへの生徒の積極的な参加を促進する。 ・地域の行事に生徒がボランティアとして参加し，地域の方々との交流を深める。 ・ビックリーン活動を地域の方々に周知し参加を促す。 ・バラ園の清掃に生徒のボランティアを募る。		【達成状況】 【次年度の方針】
	Ｂ10　学校は，地域未来会議を通して生徒と地域住民が意見を交換する場を設け，交流を図っている。 【数値目標】 評価項目Ｂ10 の 生徒の肯定的回答が 85%以上	○地域未来会議を拡大し，参加メンバーを広げる。 ○地域未来会議を年２回(６月，12 月)開催して，中学生と地域協議会委員が意見を交わし，若松原地域の強みを生かした取組について協議し，実践する。 ・地域未来会議の第１回に計画を立案し，実践した後２回目で評価を行い，次年度の課題を協議することで，交流の継続性を図る。 ・地域未来会議に生徒会執行部だけでなく，中央委員の生徒の参加を促し，各専門員会で取り上げた議題を地域未来会議に図り，次の活動につなげていく。		【達成状況】 【次年度の方針】

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は，文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

7　学校関係者評価

8　まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は，文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。